

学術フォーラム「科学的エビデンスに基づく『スポーツの価値』の普及の在り方」の開催について（案）

1. 主 催：科学的エビデンスに基づく「スポーツの価値」の普及の在り方に関する委員会
2. 共 催：調整中
3. 後 援：調整中
4. 日 時：令和元年10月 3日（木）13：30～17：00
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区）
6. 委員会の開催：調整中

7. 開催趣旨：

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を目前に控え、学術の観点からスポーツの在り方を考える機会が訪れている。スポーツ庁は、東京オリンピック・パラリンピック後を視野に入れて「第2期スポーツ基本計画」を策定し、スポーツ振興策を推進している。この施策の基本は、国民に科学的エビデンスや知見に基づく「スポーツの価値」を普及・啓発することにある。ルール化された身体運動という意味でのスポーツは、現代社会を構成する重要な要素であるが、その在り方が時代とともに変化することに注目する必要がある。それゆえに、スポーツは、スポーツ独自の問題にとどまらず、科学や技術、思想、社会、人びとの生き方、共感の在り方と深くつながり、学術の観点からの再検討が必要である。このような状況の中、スポーツ庁長官より、科学的エビデンスに基づく「スポーツの価値」の普及の在り方に関して、学術会議に審議依頼があった。本フォーラムでは、スポーツ庁からの依頼により組織された、科学的エビデンスに基づく「スポーツの価値」の普及の在り方に関する委員会の活動を紹介し、スポーツにおけるエビデンスの重要性、スポーツとメンタルヘルス、スポーツの現場について話題提供を行う。また、「日本社会とスポーツのこれから」をテーマに、著名なパネリストを交えてディスカッションを行う。

8. 次 第：

総合司会：田原淳子（日本学術会議 科学的エビデンスに基づく「スポーツの価値」の普及の在り方に関する委員会幹事・連携会員，国士舘大学体育学部教授）

13:30【開会の挨拶・科学的エビデンスに基づく「スポーツの価値」の普及の在り方に関する委員会の紹介】

渡辺美代子（日本学術会議 科学的エビデンスに基づく「スポーツの価値」の普及の在り方に関する委員会委員長・副会長・第三部会員，国立研究開発法人科学技術振興機構副理事）

13:40【基調講演1】

「スポーツ庁の紹介・社会におけるスポーツの役割（仮）」
調整中（スポーツ庁）

14:00 【基調講演 2】

「スポーツにおけるエビデンスの重要性（仮）」
調整中（日本スポーツ協会）

14:20-14:30 休憩

14:30 【基調講演 3】

「スポーツとメンタルヘルス（仮）」

神尾陽子（日本学術会議 科学的エビデンスに基づく「スポーツの価値」の普及の在り方に関する委員会委員長・第二部会員，お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所人間発達基礎研究部門客員教授，国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所児童・予防精神医学研究部客員研究員）

15:00 【基調講演 4】

「スポーツの現場—トップアスリートの能力，スポーツの普及，スポーツにおけるコーチング—（仮）」

田嶋幸三（日本学術会議 科学的エビデンスに基づく「スポーツの価値」の普及の在り方に関する委員会委員・特任連携会員，日本サッカー協会会長）

15:40-15:50 休憩

15:50 【パネルディスカッション】

「日本社会とスポーツのこれから—Society 5.0，移民のインクルージョンにおけるスポーツの役割—（仮）」

司会：渡辺美代子

パネリスト：

喜連川優（日本学術会議 科学的エビデンスに基づく「スポーツの価値」の普及の在り方に関する委員会委員・連携会員，情報・システム研究機構国立情報学研究所所長，東京大学生産技術研究所教授）

高瀬堅吉（日本学術会議 科学的エビデンスに基づく「スポーツの価値」の普及の在り方に関する委員会幹事・連携会員，自治医科大学大学院医学研究科教授）

田嶋幸三（日本学術会議 科学的エビデンスに基づく「スポーツの価値」の普及の在り方に関する委員会委員・特任連携会員，日本サッカー協会会長）

山極壽一（日本学術会議 科学的エビデンスに基づく「スポーツの価値」の普及の在り方に関する委員会委員・会長・第二部会員，京都大学総長）

山口香（日本学術会議 科学的エビデンスに基づく「スポーツの価値」の普及の在り方に関する委員会副委員長・特任連携会員，筑波大学体育系教授）

來田享子（日本学術会議 科学的エビデンスに基づく「スポーツの価値」の普及の在り方に関する委員会委員・連携会員，中京大学スポーツ科学部教授）

17:00 閉会

講演候補者

河野一郎先生 元日本スポーツ振興センター理事長
福永哲夫先生 元鹿屋体育大学学長

パネル討論タイトル案

「No one will be left behind (誰も置き去りにしない) 社会のための
スポーツ」

「勝利に向かう一元的価値から多様な価値を承認する社会へスポーツと
科学ができること」